

# 桔梗ヶ原分館報

45.1.21.  
第31号

## 桔梗ヶ原開拓百年記念特集

### ◆ 挨拶 ◆

分館長 林 宏一

#### 謹賀新年

桔梗ヶ原開拓されて  
百一年のあけ

東天くれないに燃えて  
新らしき世紀の夜明け

ここに始まる

昇り来る新らしき太陽を

おろがみ *あけみ*

総べての生命あるものに

幸多かれと祈る

昨年十二月七日に、桔梗ヶ原開拓百年祭の記念式典が挙行されました。

多数の来賓の方々がご来臨下さい、ご懇篤な祝辞を賜わり、また

区民皆様のご参列をいたゞいて、意義深い式典が感激のうちに進行されました。

須賀の荒野の一角に、初めて、開拓の鉤が入られたのは明治二

年のことでありました。星霜移つて

百年、血のじむ、そのさゝやか

な土が、やがて、幾多の継承者の

手により、豊かな果樹園地帯とし

て発展し、今日の桔梗ヶ原が形成

されました。荒野の中に、厳しい

自然と苦闘された先人の姿をしら

び、今日の郷土の隆昌と思いきら

べる時、無量の感慨を覚えるもの

です。そして、多くの先人の辛苦

に對し、おのづから、感謝の思い

に満たされます。

私達は、今、百一年という、

桔梗ヶ原の新たな世紀のれい明を

迎えました。世は昭和元祿、高度

経済成長と景気の良い話題が耳に

はいってきます。桔梗ヶ原にも、

年毎に新しい住宅ができて、戸数が増加してきます。これからの桔梗ヶ原はどのなるでしょう。果樹産業の近代化という課題を思い、都市化に伴う住宅地帯としての将来を考えあわせると、桔梗ヶ原も歴史の大きな転機に立たされております。

百年の歩みを顧みて、私たちは先人の労苦の跡をみる事ができました。そして、徒らに懐古の情にとどまらず、先人の常に求めてやまなかつた、その精神を学ぶことを教えられ、先人のたむむこと、自らの心として、地塘春草の夢をむさぼることなく、真剣に未来を展望し、郷土の新しい歴史を創りたいものです。

百年記念事業に對し、物心両面にわたり、心からのお力添えをいたゞき胸中の感益るるを察し得ません。百年の記念に、公民館前に有志の方たちにより、さゝやかな庭が造られ、不動の岩がすえられました。もりあがる区民の皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。公民館事業もおかげさまで大過なく大半を終了しました。百年記念事業、遊園地造成等、近年にな

### 桔梗ヶ原

#### 開拓百年祭挨拶

区長 平林 盛近

本日桔梗ヶ原開拓百年祭記念式典を挙行致しましたところ来賓各位をはじめ区民の皆様におかれましては年の瀬せまる公私御多忙の中をよく万障御繰合せの上御臨席の栄を賜り此の式典の意義を一層力づけて頂きました事に對し、謹んで感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

明治二年此の桔梗ヶ原の土に開拓の鉤が高きより振り下されてより以来と申し上げたならば誠に牧歌的で詩的情緒も豊かであったか様の錯覚をさえも起しやすいたのでありますが、実は地下三〇米の

い事業がありました。皆様のご協力により、所期の目的をまがりなりに完遂できましたことを心から御礼申し上げます。今年度も後僅かになりましたが、激動する社会情勢に對処し、取残されることのないように、微力を傾注してまいりたいと思っております。どうぞ、今年も一層のご鞭撻とご協力とをお願い申し上げます。

所に命の綱の水を求め乍ら嘗々と  
してあらゆる労苦困難に打勝って  
よく初志を貫き果樹産業の地とし  
て発展をさせ、又熱烈なる郷土愛  
の念に燃え桔梗ケ原開拓百年の歴  
史を我頭上に一際高く燦然と輝か  
しめたるは一つに涙ぐましい努力  
の結集そのものであった事を偲び  
先輩各位の行跡をここに讃え又之  
迄桔梗ケ原に御協力下さいました  
各位に対しまして、伴せて深く  
感謝致します次第であります。

明治百年といひ、桔梗ケ原開拓  
百年といひ、その言葉の印象から  
は、ややもすれば、偶然性があつ  
たかの様な錯覚をさえ受け易いの  
であります。実は必然性というも  
のがあつたのであります。単的に  
言い代えて申し上げますならば努  
力と根性が基となつたのでありま  
して、いわゆる桔梗ケ原開拓百年  
の歴史は必然的であつたと申し上  
げるのであります。此の機会をし  
て桔梗ケ原の此の地をよく見つめ  
認識を新たにしたいものです。

言ひ事でありませう。自分を知ると  
言ひ事は自覚するということに始  
まると考えます。

歴史は未来という空気を吸って  
生きてゐる生きものであります。  
未来なき歴史はあり得ないと考え  
ます。又、歴史は何人も変える事  
のできない過去の経過であると考  
えたり、唯郷愁に捉われたりする  
事なくこれからの、未来をどのよ  
うに創って行くかという事に歴史  
の意義があるのであります。こう  
した考え方の中から創造性、即ち  
夢を豊かにして、如何にどのよう  
にして先輩各位に負けない様を立  
派な桔梗ケ原の歴史を創っていく  
かという責任が私達に課せられて  
いるのであります。実はこの事は  
一般社会への連帯責任でもあり、  
大切な要素でもあります。

私達区民は地域社会である此の  
桔梗ケ原開拓百年の歩みに對して  
認識を新たに知るといふ事は実は  
己を知るといふ事でありませう。

現在桔梗ケ原にお住いの方々に  
は桔梗ケ原開拓百年の頭初から開  
拓の斧をふるひ、共に幾多の辛  
酸をなめ、開拓百年の歩みを一歩  
一歩ふみしめて、培つて来られた  
という一体感を持つていたとくと  
共に、先輩各位の労苦困難に打ち  
勝つた志を理解し合いながらお互  
いに協力することを心がけ、心と  
心の手をつなぎあい、英知を寄せ

合つて、これからも、なお一層立  
派な桔梗ケ原の歴史を創ることを  
誓ひ合ひたいと思ひます。

本日御臨席の皆様には今日のこ  
の誓いをうちそとに御吹聴下さい  
まして、時代の進歩と共に刻々と  
移り変わり行くこの桔梗ケ原を暖か  
い目を以て見守つていたとくと  
共に切なる御指導を賜わるの外鞭  
達の鞭をもくれ打つ事をお忘れな  
きよう区民を代表して切に切にお  
願ひを申し上げる次第であります。  
以上をもちまして桔梗ケ原開拓百  
年祭式典の挨拶と致します。

桔梗ケ原開拓百年の意義ある式典  
にお招きいただき御祝辞を申し上  
げる機会を得ましたことはまこと  
に光榮に存ずるところであります  
市長に代つて一言ご挨拶を申し上  
げます。

桔梗ケ原のこの地が今日このよう  
にりっぱに振興発展いたしました  
が、このことは古くこの地に開拓  
の斧を振り多くの困難を克服して

祝 辞

塩尻市助役

丸山 秋男

農業振興に努力された先覚者の方  
方の功績によるものでありまして  
ここに改めて感謝と敬意を表する  
次第であります。

さらさらこの地の現代を背負つて精  
励されてこられました皆様の御努  
力に對しても敬意を献げる次第で  
あります。

塩尻市が新産業都市の中心地とし  
て経済的にも社会的にも大きく発  
展して参りましたが、この地桔梗  
ケ原は市の中心地として今日新し  
い市づくりのため極めて重要な地  
位を占めております。

従つてこの地域の発展は即ち市の  
発展につながるわけであります。  
昔から天の時地の利人の和と言わ  
れております。どうかこの地の現  
在を背負つていられる桔梗ケ原の  
皆様は一致協力されまして先輩の  
培われたこの地をさらさらりっぱな  
ものに育てて郷土の発展におつく  
し下さいますようお願いいたしま  
して私の御挨拶と致します。



信と和

一 開拓百年祭祝辞一

塩尻市教育長 高津 光市

ご挨拶を申し上げる前に、平素皆様方におかれましては、青少年健全育成や公民館活動などに格段のご尽力をいたゞき、お世話様になっておりますことを心から御礼申し上げます。

今日は桔梗ヶ原開拓百年祭にお招きをいたゞき、ご参会の皆様のお元氣なお姿に接し大へん嬉しく存すると共に、ご出席のおとしよりの皆様のお髪の一すじ一すじににじむ今日迄のご労苦の数々を思い、深い感慨を覚え、敬意と感謝の念に満されるものであります。先程来区長さんや助役さんのお話にもありましたように、この土地を切り開かれた諸先達の辛苦は並大ていのもではなかったわけでありますが、そのあとを継承されて今日の様な立派な地域づくりをなされたことは正しく皆様方の不退転のご決意と、溢れるご熱意に

加えて、いわゆる気寄りのよさの賜であると存じ、諸先達に対する以上に皆様方の功をたたえるものであります。

終戦後幾度遷を経た今日、社会の様相はめまぐるしいまでに変転し、相互信頼の念が、ともすると予想もしない程薄れてゆく心配すらあります。幸いこの地区の皆様は既に過去においてお示し下さっておる通りに若い人達を大切にし、若い人達の意見を謙虚に聴きながら、新しい地域づくりに献身なさっており、信頼そのものの温かい姿を具視しておられる点、ほんとうに心強い限りであります。

このように皆様方の崇高な精神は子供達に正しく反映し、先輩大人の意見を聴きその指示に進んで従うに至りますことは自明の理でありまして、今日言うところの青少年健全育成も、このようであつてこそ、その実が挙げられるのであります。以前に行なわれた家庭の日の発表会に於て、小学生をはじめとして百才会の方に至るまで、各層の人達が極めてざっくばらんに所見を述べ合い、考え合わせる機会をもち、そのことを全地区の皆様が極めて大切に

しておいでの実相は、何とも尊いものでありまして、桔梗ヶ原発展が極めて堅実であることがほんとうにうらやまされるのであります。そしてこのことよりしても今後の新しい激動期とも言うべき時期に於ける進展も容易に確信いたし得るところであります。

御参会の皆様方をはじめ本日ご都合でご出席できなかった方々はどうぞ一層ご自愛なされ、この意義深い百年祭を契機とされて、更にご壮健でご発展なされますよう心から祈念申し上げ撫辞ではあります。ご挨拶にかえさせていただきます。

ほんとうに本日はおめでとうございませう。

☆ 桔梗ヶ原の今昔 ☆

一 開拓百年祭祝辞一

博物館長 塩原 和彦

私は以前に桔梗ヶ原で開拓百年祭をすると言ふ事を聞きましての御実によい事をなさる。それは、丁度生れた子供の誕生祝、七五三祝と成長するにつれて祝福してゆくに似て、一節一節が実に尊いものであると思ひます。

桔梗ヶ原と言ひますと昔は「信濃なる須賀の荒れ野にほととぎす鳴く声きけば時すぎにけり」と万葉の歌に残された須賀野は、床尾、平出、桔梗ヶ原一体を称したものと云われております。その後残されてあるものは、古戦場と玄蕃の丞の物語であります。

古戦場と申しますのは、足利の臣小笠原政直と信濃宮宗良親王と戦ったところで、小笠原長時と武田の戦もあつたのですが、戦果の事については余り知られておりません。玄蕃の丞の狐と言われておりますが、狐でなくこゝに住居をかまえた人玄蕃の丞といつたのであります。玄蕃屋敷といつたのであります。只今郷原の史談会の方方にお願ひして屋敷跡の調査をしてもらつております。

狐の話では桔梗ヶ原の玄蕃の丞赤木山の新左エ門、砂尻の佐源遠(道)佐源道をさえん殿といつた女だといふ人もありますが、男が本当の様です。それから横手ヶ崎の御夏これは女だつたらしく、唐沢先生が筆になる「狐とや夏はかなむ夢のあと」といふ碑が建てられておりますが、これには何か

玄蕃の丞との恋の物語があるそうです。

明治二年平出の田中勘右エ門が鉄鉞をおろして丁度百年、桔梗ヶ原も私が子供の頃には只今の朝日街道より北は本当にやせた原で、所々に車松が生えていてそこにあ

みじこや、はつたけが出来てよく取ったものです。又草刈場だったので、次から次と草を刈るので草も延びず、まるで芝を刈るようなもので、鎌をよくといてやると刈ったものです。うずらがよくいてとうとうとして追いかけたこともありません。又いちごを取りに来た事

ケもありましたが、チゴチゴがたくさんさいっていました。草ものびないこの土地が、今日のような肥沃な立派な桔梗ヶ原になるとはその当時の人達はだれも考えても見な

ったと思います。街道の牛山さんの宅地のところが私の父の開墾したところで、掘り取った芝を四角に積んでおいて乾かして、それを焼き灰をまいてそばをまき短かいそばを刈り取

た事を覚えております。当時親戚で無尽を作ったその掛金三十五円に困って市川さんに折角の開墾地を買ってもらいましたが坪二銭で

した。今の若い人達には想像もできません。開墾の鉞をおろした人達は今この桔梗ヶ原の基礎を造ったわけですが、そのやせ地を現在の様な肥沃な畑とし、受継いできた人達の努力はこれを賞してもよいと思います。

田中勘次郎さんは横井戸を掘って、平出泉の水を引いてゆくつもりだった様です。平出の生れです

ので、この泉を上から引いてゆく事はいけませんが、下の方からもってゆく分には差支えないだろうと言ったそうです。何せ水があれば桔梗ヶ原ももっと以前に開拓された事と思います。

先人達は諏訪湖から水を引く事を計画した事もあるそうです。又木曾の味噌川を奈良井川へ落とす日出塩の赤ぶちでせきとめ、それを桔梗ヶ原迄溝を造って通す計画を立て、今でもその溝のあとが残

っております。私もこの先人の努力を考え、農地改革の時に只農地が地主から小作に所有権が移っただけでは農地改革の実を上げる事はできないと思ひ、交換分合から耕地整理までしなければこの先人に對し恥ずかしいと心にきめたものです。まだまだ農道の事、桔梗

ヶ原の旧道路の問題等について面白い話がありますが、余り長い事はかえって失礼になりますのでまたの機会にゆずり、林さん百瀬さん吉田さん等と明治時代の状態等も話し合つて後代に語り継がれる様な事を残したらと思つております。桔梗ヶ原の玄蕃稲荷のほこらは大事にして下さい。

武夫の草むすかばね年ふりて  
秋風寒し桔梗ヶ原  
加藤宇万伎

桔梗ヶ原百年の歩み  
百瀬 清人

桔梗ヶ原開拓百年祭開催の前日慌しく入院された吉田さんに代つて講演の穴うめに登壇する様区長さん分館長さん方の強い要望を頂いたが、余り急な事であり又常日頃私はそれらの問題に関し極めて不勉強であつたので他の方を考えて頂くか又別のプログラムに替えて頂く事等提案したが再三の強い要望もあり百年祭発案者である責任等も考えお引受しました。それら

の事情等御賢察の上御出席の皆様方の御了承を賜わり吉田さん発行の「桔梗ヶ原の話」及び「東筑本塩尻市誌」を参考に致し、明治二年より昭和二十年頃迄の間桔梗ヶ原の開拓史について皆さんと共にこの機会にふりかえつて見たいと思ひ勇気をだして登壇いたしましたわけである。

開拓の発現  
遠い幾ヶ年の昔から不耗の原野として明治の始めの頃まで全く世の人から顧みられなかつた桔梗ヶ原に一たび開拓の鉞がおろされると僅かの間に急速に開け今では昔の姿を偲ぶこともできなほど

ど一帯の果樹園と化され住宅も二〇〇余戸を数え宗賀では洗馬に次ぐ大部落を形成するに致つて

いた。會てはこの原に水を引入れて水田化せんとする計画も数々行われたが何れも事成らずして終つてしまつた。それは現代に於てすらも大事業で多大の労力と多額の経費とを考えずして到底なし得ないことであつた。周辺にはこの原を水田化される程の水源は求め得られず、自然それは奈良井川にやらなければ不可能とされていたが奈良井川は彼の大きな段丘によ



報館分原桔

◎明治十四年  
 歛下満了の明治十四年には僅かに九町五七の開墾しかできなくて、十九人の入植があっただけでこの計画は失敗に終ってしまったのである。それで残りの九十余町歩というものはまた官有として召上げられてしまった。

◎明治十八年十二月  
 桔梗ヶ原入会分間団というものができ上り旧払下地域百町歩の地は宗賀、塩尻、原新田の三戸長役場へ分属とされた。それによると宗賀 三五町九反三七一歩  
 塩尻 二八町 四七一〇歩  
 高出 二六町七反七七一歩  
 郷原 九町二反四七二〇歩

宗賀の三五町歩は床尾平出の二部落に分けられて分割された。明治の当初入植した人々のうちで現在まで残っているのは田中氏以外に殆どない。当時ポツポツ入植したものの皆経費が続かずそのために入植を断念するものが大分あったということである。

◎明治二十年頃  
 現在の鉄道線路の附近まで耕されその辺から北の方は原野と畑地が入混っている様な状態で時には入植者であっても前記の様を事情で

定着する人もあまりなかった。

◎明治二十三年  
 山辺ぶどうが不振であった明治二十三年、里山辺の人豊島理喜司氏がはじめて塩尻桔梗ヶ原地籍に移住し、実兄高山寿太郎外数名と宗賀区桔梗ヶ原官有地の払下げを受けて開墾し、群馬県妙義山麓小沢善平果樹園より米国種コンコード苗三千本外二十種の苗を取よせて越後の人、川上善兵衛氏にその栽培法を学んで植栽したのに始るといふ。特にコンコードはその栽培が容易で豊産かつ風土にも適することが認められて逐年増加した。

山辺地方のぶどうが甲州種で失敗したのにかんがみ豊島氏は米国種を取入れ、しかもぶどう酒醸造を目標にしたのは、今日の桔梗ヶ原地帯のぶどう栽培発展の基礎となつてゐる。

最近塩尻市果樹振興会や一般有志の皆さんによって豊島翁の偉徳をしのび後世に迄この偉大な功績をたゞえ称したいと相計り記念碑設立の機漸く熟し近いうちに国道十九号線ぞいの市総合グラウンドの一角に建立されることであろう。

○○思 い 出○○○

花岡 福夫  
 不可能と思われた事が実現する  
 と夢のようだなんて言つたもので  
 す。水もなくやせ地で草もろくに  
 育たなかつた桔梗ヶ原が我国有数の  
 果樹栽培地帯になつたという事  
 も、夢のようだと書いても過言で  
 はないでしょう。

周囲五百メートル程の近くには昔から住居部落があつたにもかかわらず、これらの人々には、問題があつた事と思われまふ。

まず第一に、水利がなかつたこと。第二に土地がやせ地であつた事等があげられるでしょう。明治以前から何回となく近隣の住人に地割をして、開墾をさせるべくお上より通達がありましたが、一區開墾しても再び原野にもどつたことによつても、前に述べた悪条件のためと推察できます。私は明治三十九年十二月初めてこの地へ鎌をふるしたのでありますが、当時二、三戸或は五、六戸の集団的住家が四、五ヶ所ありましたのみ、これも飲用水(井戸)の關係と思われまふ。人間が住む以上水と便所は何としても直ちに確保しなく

てはなりません。

今年開拓百年を迎え現在の果実生産地帯になるためには幾多の困難につきあたつた事はいう迄もありません。忘れることのできぬよりの思い出も数限りなくよみがえつてきます。

その二、三を書いてみます。

第一に飲用水の問題  
 流れ川がない為井戸水に頼るより外ありませんが、何しろ二十米と四十米という深い井戸ですから、三、四升入りのつるべくみあげるには並大抵ではありません。女子や老人としては実に重労働の作業でありました。井戸を掘るには一人の掘り手に綱引き人夫六、七人を要し十、十五日の日数を費し殊に冬のかつ水期に掘らねば夏場枯渴する恐れがあります。それでも毎年夏場乾燥期には枯渴し一年に四、五回浚掘りした事も度でした。井戸の掘りは専門の人を雇つて掘つたのですが、当時日給二円五十銭(普通入夫は三十五(五十銭)経済的打撃も甚だしく隣人協議の末自宅の井戸は本人が掘り、手番(綱引)は隣人で自弁無給、つまりユイでやる事にしま

<p>折角掘った井戸水も水質いたって悪く、白色のもの（白ニゴリ）中には鉄分を含んでいるためお茶が黒くなるという状態で、飲用水としては最悪不適当のものでした。住居をかまえても他家からのもらい水で暮らしたものです。</p> <p>私は十二月住居を建てたが就いて正月という訳で井戸掘りに着手できず、近くに井戸がなかったので二百メートルもある遠い井戸水をもらって暮らしました。冬の降雪時など手おけ半分位の水で一家一日を送るといふ始末、時によつては洗面器一ぱいで家族三人顔を洗ったこともありました。大雪の時など水くみに行けず、雪をとかして飲用することも一つの手段でした。現在水道の蛇口から水と出る水を使用不自由なく暮らせる事を思えば、感慨無量のものであります。</p> <p>第二 梨栽培</p> <p>私の開墾予定地に樹令約七、八年位の梨が植えてありました。その数三、四十本。昨年まで管理していたという人に種類名称収入等尋ねましたが、多少結実する樹もあるが商品価値はないとの事。自分にも栽培管理の知識なく掘り</p>	<p>取って薪にしました内、十数本を隣近所の者に防風樹として進呈しました。移植した関係かその樹がよく結実し食品としての価値が充ちておりました。この樹は、現在七、八十年令と推定されますが、現在矢島氏の庭に一本残っており毎年結実しております。早生赤といふ晩生種と判明しました。他の樹は後に述べる害虫のため切り取ってしまった。）</p> <p>明治四十二、三年頃からこの地は梨栽培に見込みを立てる人もあつて、早生赤、長十郎、二十世紀等盛んに植えられ、年が進むにつれて有望視せられ各戸競って植樹し、当時の養蚕より有利でした。年を経るに従つて病虫害が発生し幼稚の防除では対抗出来難くなりました。害虫の一種にミバチといふ害虫あり、大変な打撃を受けはじめました。現在のように駆除農薬もなく、成虫のとび立たぬ日出前に樹の下に布を敷き、打ち落して殺す。これが唯一の駆除方法でした。未明から家族総出で毎朝続けますのも並大抵ではありませんが、この努力も害虫には勝てず、全滅に近い被害を年々繰り返して、ついに栽培を断念のやむなき</p>	<p>に至り、三、四戸を除く外は掘り取ってしまった。</p> <p>果樹は野菜等と違つて多年生であり、結実までには数年を要します。子供を育てるよりに大切に可愛がって大きくなったのを切り取るのやむなきに至つた。各自の心中察するに余りあるものでした。その後有効の農薬消毒器具の誕生によって再び今日の隆盛を見たのであります。</p> <p>第三 ぶどう栽培</p> <p>ぶどうは当地に於ては梨より歴史は古いのですが植付後約十ヶ年頃より（最盛期）キンサルハといふ害虫が発生し若芽を食害、被害は甚大でした。当時梨と同じく有効な農薬もなく駆除の方法としては虫をたたき落して鷄にくわせるのが最上の方法でしたが、鷄も初めから好んで食はず、穀類をませて食べならせました。この訓練も並大抵ではありませぬ。日中は虫も舞つて地に落ちませぬ。朝夕全員で駆除にあたつたもので、この努力も虫には勝てませんでした。年々被害は多くなるばかり、遂に後記のような事迄やつたものです。某家の約一ヘクタール程の畑は殊に多く、駆除を放任してしま</p>	<p>まいました。村人が相談畑主と協議の上焼き払つて撲滅する事にし十年生くらいのはぶどう樹を村中総出で切り、石油をかけて警察官立合の上で焼いた一事であります。当時こんな方法より駆除方法がなかつたとは情けない話でした。現在 DDT が一袋あれば全滅できるのにと当時がしのばれます。その他凍霜害による甚大な被害をこうむつたことも度々で、予防として重油、薪等を燃焼して温度を高め被害の軽減を図ろうとしました。四月下旬から五月初旬、発芽と開花の時気温〇度以下になるとタンクの容器を一ヘクタール三、四十個並べ、重油を入れて点火し大抵夜十二時頃より夜明け迄燃焼し続けたものです。その間重油の補給等で一睡もできず日の出を待つて作業終了となります。夜が明けると樹を見れば芽も花も油煙で真黒、人間も手から顔まで花芽同様真黒で目ばかり光っている有様。寒さにふるえ真黒にまでなつて努力しました。が点火時の関係上かえつて被害を多くした例もありました。この外多くの失敗をしましたが、しかしこの失敗や苦勞が現在の果樹隆盛の原動力になつた事は、否</p>
--	--	---	--

### 第二次パラダイス

青柳 隆人

青い背広の西郷輝彦に似た青年がやってきて、今後の桔梗ヶ原について書けと言ひ。ふるさとを逃げだした私にはそんな大それたものを書く資格など毛頭無いのだが、なつかしい皆さんに便りを書く気持ちで駄文を書いてみましょう。

仲町は桔梗ヶ原より約五〇米ほど高いので、日夜大門の町越しに桔梗ヶ原を望むことができる。次第に増加していく家並、日毎にふえる近代建築。塩尻市の中心街として田舎町がふくらんでゆく。そして市街地の南にある巨大な工場からは膨大なばい煙が、はるか村井を越えて流れている。朝日に照らされてもうもうと噴き上げられ煙幕のように棚引いた風景は動きのある美しいながめである。

昭和電工塩尻工場。この巨額の資本によって動かされている大企業は、施設の増加によって近年益益生産はピッチを上げているとの

ことである。私はこの工場の煙害に負けて遂にふるさとを捨てたのであるが、昨年来新製品の製造による煙害が農作物に被害を増加したと聞く。賠償交渉によって子供だましの金が支払われたという。私は自分の夢をしめられるような悲しみと憤りを覚える。公害。判然としたばい煙公害である。東南に位置した大工場は桔梗ヶ原にとって悪運の方角である。

名古屋から塩尻まで車で三時間半。洗馬で木曾路を終った自動車は一気にスピードをあげてつづ走る。快的な一本道が果樹郷のどまんな中を縦断する。一日一万台の車が通るといふ。地図を拡げて見ると正に縦断車道である。国道が通ると家が建つ。家は道にそって町へと続く。十年前には一二〇戸であつたのが今は二〇〇戸を越したとのこと。土地は一万五千とか二万円とのこと。一反歩四五〇万円。プラス経営資金と労力で幾らの所得を生むだろうか。ソロバン好きはきつと勘定しているに違いない。地価の高騰は農魂の喪失となる。

戦後の荒廃から立ち上つた園協創立当時の桔梗ヶ原は、全部の人

人が部落協同体としての組合設立に努力したのであつたが、あれから二十余星霜をすぎた様々の起伏変転が、世界に日本に、桔梗ヶ原に起つた。そして現在は工業重点の国策は農業無視、農民追い出しとなつて日本の農村は前途に希望を失つてしまった。政治に見放された農業。懸命に土にしがみついた農民。余震におびえる人々のように不要な日々を働いている農民。新都市計画法による農地の蚕食。土地ブローカーの活躍。桔梗ヶ原もまたこの例外ではない。

そして最大の事態は、昭和電工のばい煙と国道による部落の両断と、果樹の不安定ということである。

これからの桔梗ヶ原はどうなつて行くか。どうせねばならぬか。これは重大な問題であつて誰しも當を得た名案があるものではない。すべての桔梗ヶ原の人々が日夜思い悩んでいるに相違ない現在の苦悩である。世界的規模に於て桔梗ヶ原を考えねばならぬ時代である。資本主義の政治経済機構がどんな風に桔梗ヶ原の人々の暮らしを支配しているか。支配されてい

るか。根本的にはそこから出発しなければならぬと思うが、この問題は仲々難しいことである。きつと青年諸君が研究していると思ひるので私は岡目八目に桔梗ヶ原の今後を盲想して見よう。

まず園協から東の霜害地帯は住宅地帯化するであろうからこの人口増加を利用して小工場の誘置をやる。自然増の場合は年間二〇〇戸位と思われれるから五年後には一〇〇戸増、十年後には総戸数四〇〇戸以上、現在のほぼ倍の人口となる。団地が出来る場合ははるかに上廻ることとなる。この東地区の果樹は採算不能であり、耕地の縮少による労力の余剰があるからハウス園芸へ転換する。果菜類を重点とし鉢物を取り入れるのもよからう。露地ものは播種や庭木盆栽など相当の需要が見込まれる。中小工場は精密器械類を初め、漆器、楽器、木工業輸出ベトナムに乘るものが沢山あるはずである。

中部地区と西部地区は果樹可能地帯としてやっていけると思ひ。遊覧向きには現在のより小さな個人的なものでなく、宮坂園から土井さんの附近までの眺望のよいところで大遊覧農場を開設する



牡丹、ツツジ、バラ、菖蒲、ドウダンなどを各千本位の花園を作る。果園や遊覧道にはパンジー、キク、サルビア、コスモスなど四季の花をびっしりと豪華に植え詰める。フルーツガーデン即フラワールガーデンである。

人工温泉、貸席、ドライブインまでやれば年間収入と人件費の問題も楽になる。土地のあるものは土地を、金のあるものは金を、労力のあるものは労力を、出し合えば株式会社として不可能ではあるまい。金を持って遊びにくる人達をつかまえることは関係以外に對してもプラスである。木曾駒高原まで進出してきた中京族は一時

間半位で日本アルプスの大景観に接し、これぞこの世のパラダイスとごきげんになるに違いない。かくて。

われらの先輩が嘗々教々として開墾したこの拓野は、のどかな牧歌調を捨て去って、爆音と雑音の衆落と化するのだが、如何せん、時代の波浪には打勝てず、悲しみを乗り越えて新たな生活の方途を講じなければならぬ。

それにしても、最大の難問は昭電のばい煙である。このばい煙あ

るが為に精密工場の誘置は難かしいのである。精工舎の塩尻工業はこのばい煙をさけて現在地に建設したと聞く。憎むべきばい煙である。公害法もあり、被害住民は強力に団結してこの問題を解決するのが最重要事ではなからうか。命ある己れを守る為に。愛する子孫を守るために。第二次パラダイスを結ケ原を生み出すために。

◇冬と健康◇

伊藤 公夫

冬の寒さが直接人の生命をおびやかすことには凍傷や凍死がありますが、このように特別な場合の他、寒さが色々な病気にくみしていることが沢山あります。感冒をはじめとし、気管支炎、肺炎などのいわゆる呼吸器の病気がやばい冬に多いものです。これは、寒さと、乾燥した空気が呼吸器の粘膜を傷つけ、病原体の感染を助けるからです。気管支ぜん息の発作もしばしば寒さが誘因になることがあります。よく、お年寄りなどで

毎年冬になると、三ヶ月以上もせきやたんで悩まされる人があります。多くは気管支ぜん息でなく慢性気管支炎である場合が多いようです。寒い戸外をさけるとともに、たばこをやめるなど、荒されている呼吸器粘膜が回復するのに都合のよいようにしてやるのが大切です。

血圧の高い人にとっても、冬の寒さはいがしるにできません。概して血圧の高い人は寒がりでない人が多いためですが、脳卒中は一年を通じて冬期にもっとも多いものです。これは寒さにあうと、

体の表面の血管が収縮し、そのために血圧が上がり、脳出血の原因になるからと説明されています。和式のトイレでしばしば脳卒中の発作の現れるのは寒さと、下半身を強く折り曲げることで、上半身の血圧が上昇するためです。血圧が二〇〇ミリHg以上もあるような人はトイレを暖くする——使用前十五分電気ストーブで暖房してから使おうとかがまてれば、腰掛式にすることが望ましいことです（和式トイレに接続するよう作られた腰掛式トイレも発売されています。）

心臓病とくに狭心症の発作などはやはり寒さを誘因としてひきおこされることがあります。その他心臓病があっても、心臓がその欠陥を補ってよく働き、日常の生活にさしつかえないような状態にいる場合（これを代償という）寒気に長時間さらされることにより、代償ができなくなり（代償不全）むくみ、動き、息切れなどが激しくなり、床に就かなくてはならぬようになります。

慢性的腎臓炎をもっている人にも寒さはしばしば病気の悪化を招きます。とくに、寒さに合うことにより、尿に蛋白が出たり、むくんだりするような場合は嚴重な医療を必要とします。関節リウマチ神経痛、慢性胆のう炎なども、寒さがかなり大きな誘因となる病気で、これらの病気を保持として持っている人は冬の寒さで増悪するのにも悩まされます。

寒稽古をはじめとし、冬のスポーツなどで体を鍛えるということは、あくまで健康でそれらの運動に充分耐えうる体力を持った人に行はじめて可能なことであって、そうでない人にとっては、むしろ害こそあれ、決して体の鍛練とはな

りません。

さて、病人や子供にとっては勿論のこと、健康な大人にとっても室内だけは常に暖かくありたいものです。撰氏二〇度から二五度位の快適な部屋で、うす着で過せるような設備は、これからの住居には是非望まれるところです。出来ればトイレまで含めた全館暖房が理想的です。最近のわが国の住宅構造はモルタル外装、アルミサツ

シユなど密閉化がすすみ、また数枚の断熱材が用いられるようになり、次第に暖房効果の良い家が多くなってきました。しかし、こゝで注意しなくてはならないのは、煙突のない石油またはガスストーブを密室で長時間用いることです。いうまでもなく、このようなストーブでは、いかに完全燃焼しようとも、所詮は排気の中で暖をとっているにすぎません。どうしてもこのようなストーブを使用しなくてはならない場合は、一時間に一回位、部屋の空気をすっかりまどをあけて交換すべきです。

寒い地方に住む人達は一般に食塩を多く摂るといわれています。食塩の過剰摂取が血圧の上昇を招き、また腎臓を障害するともい

れます。寒い部屋でコタツだけから暖をとり、背を丸めて塩辛い菜漬と茶を交互に口にするとなどは、もっとも危険な習慣でしょう。

### 青少年育成と

#### ウィンタースポーツ

竹林 和雄

霜柱のたつ季節になると、私たちの生活が、特別の場合を除いて屋外の生活から屋内の生活へと一段とじこもりがちになってくる。私たちの身長なども、こたつの生活の多い冬季と、背すじを伸ばす機会の多い夏季では、夏季の方が高いのである。思いきって身体を動かすことの少なくなるこの頃の生活をスポーツで、からだを動かす、心もからだもあたたまるように、おおいに運動するよう勧めたいと思います。

東京オリンピック以後、青少年の体格はよくなったが、体力がな

いというのをよく耳にするようになり、精神的能力が忘れられ

た結果ではないかと考えます。スポーツを商業的な目的や、名

声や地位を得る為のものでない、

真にスポーツの持っている価値を私たちが心身の育成に役立てるために利用していきたいものだと思

っています。ですから技術の向上を目ざして継続的に練習する場合には、忍耐力や細心さが養われ、節度ある計画的な生活態度もつくられます

競技的なものは、身分の上下の区別もなく、平等の立場で公正に行なうのがたてまえになっており物質的な関係で競技するのではなくから競技だけの敵味方であり、明るい寮囲気ができ、ルールを守ろうとするところから協力や礼儀ある態度が養われます。

また最近のスポーツというと、いろいろのものがありますが、「行なり」スポーツだけでなく「見

る」「聞く」「読む」ものまであるように思います。また高校などでも、どんな運動クラブでも部員が少なく、せつかく入っても途中で練習の苦しさに負けてやめてしま

うというのを耳にします。これらは表面的なものだけを追いすがたり、精神的能力が忘れられ

た結果ではないかと考えます。スポーツを商業的な目的や、名

声や地位を得る為のものでない、

真にスポーツの持っている価値を私たちが心身の育成に役立てるために利用していきたいものだと思

っています。ですから技術の向上を目ざして継続的に練習する場合には、忍耐力や細心さが養われ、節度ある計画的な生活態度もつくられます

競技的なものは、身分の上下の区別もなく、平等の立場で公正に行なうのがたてまえになっており物質的な関係で競技するのではなくから競技だけの敵味方であり、明るい寮囲気ができ、ルールを守ろうとするところから協力や礼儀ある態度が養われます。

前置きなことが長くなりまして、冬季のスポーツには、スケート、スキー、サッカー、バスケットボールなどが考えられます。特にスケートなどこの地方に適している運動だと思ひます。早朝の寒気をつけて氷上に出るとい

とは身体面だけでなく精神面も鍛えるのに大変役立つものと思ひます。田や池を利用して、そんなに大きくはなくても、身近でそれ

るところを作ってやればと願っております。また、近年早起き野球と盛ん

真にスポーツの持っている価値を私たちが心身の育成に役立てるために利用していきたいものだと思

っています。ですから技術の向上を目ざして継続的に練習する場合には、忍耐力や細心さが養われ、節度ある計画的な生活態度もつくられます

競技的なものは、身分の上下の区別もなく、平等の立場で公正に行なうのがたてまえになっており物質的な関係で競技するのではなくから競技だけの敵味方であり、明るい寮囲気ができ、ルールを守ろうとするところから協力や礼儀ある態度が養われます。

前置きなことが長くなりまして、冬季のスポーツには、スケート、スキー、サッカー、バスケットボールなどが考えられます。特にスケートなどこの地方に適している運動だと思ひます。早朝の寒気をつけて氷上に出るとい

とは身体面だけでなく精神面も鍛えるのに大変役立つものと思ひます。田や池を利用して、そんなに大きくはなくても、身近でそれ

るところを作ってやればと願っております。また、近年早起き野球と盛ん

真にスポーツの持っている価値を私たちが心身の育成に役立てるために利用していきたいものだと思

っています。ですから技術の向上を目ざして継続的に練習する場合には、忍耐力や細心さが養われ、節度ある計画的な生活態度もつくられます

競技的なものは、身分の上下の区別もなく、平等の立場で公正に行なうのがたてまえになっており物質的な関係で競技するのではなくから競技だけの敵味方であり、明るい寮囲気ができ、ルールを守ろうとするところから協力や礼儀ある態度が養われます。

前置きなことが長くなりまして、冬季のスポーツには、スケート、スキー、サッカー、バスケットボールなどが考えられます。特にスケートなどこの地方に適している運動だと思ひます。早朝の寒気をつけて氷上に出るとい

とは身体面だけでなく精神面も鍛えるのに大変役立つものと思ひます。田や池を利用して、そんなに大きくはなくても、身近でそれ

になつてきました。冬期には早起きサツカドや、バスケットなど学校の施設を解放してもらつたに、おともも混つて行なつたらと思ひます。

表題からは多少はずれますが、ヒエイの山の道を改良して、自然公園化して、幼児から老人までの遊歩道を作つたり、青少年の身体的トレーニングの場として開発されたら、自然に親しみながら、せんに身体も情緒も養われるのに、朝に夕にヒエイの山をながめながら思つています。

雑然とまとまらないことを書きましたが、実際にスポーツを楽しむ時間が少ない青少年に、少しの時間をさいものから、行なりスポーツをさせたいものと念じ、その場を、道具を地区の方々の努力で、一つでも多く作つていたゞけたら、スポーツの持つてゐる良さを、スポーツを通して健全な青少年が育つことを信じております。



### 成人式と振り袖

林 愛子

二十才、もう二十才なのかそれともやと二十才なのか、実感は湧いてこないけれどやっぱり人並に二十才になるのだ。若い娘にあって振袖は花嫁衣装の次に憧れるものらしい。近年物価高のあおりでポリーナスの大半は振り袖にかがってしまふのよなどと言つてゐるのを勤め帰りによく耳にする。何かおもしろいような気がするのだが私だつたらそれだけのお金があつたら、一人でぶらつと旅に出たのになどと考へておこしうになる。しかし、この目まぐるしい世の中で、一方では月へ人類が足をふみ入れたという。又一方ではベトナムの悲惨な姿、やりきれなさや憤りを若い者なりに感じ振り袖がなんだかんだと言つていられないような気がする。この頃何かというのと反対、反対と言つて一から十まで反対すれば良いようなそんなムードがなんとなく広まっているような気がする。何でも懐しささえすれば新しい物が生

れる如くはしかし良いものは良く悪いものは悪い。良い物だけが後後まで残つていくのだと思ふ。ですから、一概に振り袖は不経済で反対だという意見には賛成し兼ねる。親はやはり人並に入が着る物を着せてやりたいと言ふ。当然な親の立場だと思ふ。経済が許しそれを望む人は振り袖を着ようが何を着ようが良いのではないでしょう。若い娘の憧れが、夢がそこに託されてゐるならば、たゞそりう考へて十アルファとして見栄とか外聞などが働くから考へてしまふのだと思ふ。たゞ人より豪華に着飾つたとしても人より良い成人になるとは限らない。自分のしたい、自分の個性を自分なりに成人式というはれの日に表現できればそれで良いと思ふ。そしてそれが一生の思い出として快なくとも人生の一くぎりとして快く心の片隅に残る事ができたならそれでよいのではないでしょう。かむりに振り袖でなくとも訪問着でもかすりの着物でも良いと思ふのだけれど、たゞ一人で成人になつたわけではない親や兄弟の愛があらいろんな環境の暖かいまなざしの中で大人になつてこれたという

### 素晴しかった アメリカの研修生活

平林 正臣

「光陰矢の如し」帰国して早くも六ヶ月目になろうとしてゐる。今思い返しても素晴らしい二年間であつたと思へる。物質文化の最先端を行く国、最近では米、ソ連に続き、国民総生産世界第二位の地位を築きあげた経済発展国日本ではあるが、まだ一人当りの年間所得においては先進国諸国の中で最も所得の低いクラスに入る。一体これはどこに原因があるのだろうか？

さて前置きはこの位にして本文に入らう。我々第二回派米農業研修生一七七名は、一九六七年六月二十九日羽田発夜九時十五分ノースウエストオリエンタル航空のボーイング七〇七機の機上の人となり、

事、これからが人生の険しい道で己の力で切り開いてゆかなければいけないという事。深く心に刻んでおきたい。成人式に当たり振り袖とを関連づけて自分なりに考えてみました。

<p>一七七名と共に一生に一度行けるか否かのチャンスをとこにつかみ日本の裏側の大陸アメリカを喰に描きながら、静かに離陸を待つ心境とは裏腹にありとあらゆる気が持が湧き起り、それがまた入り混りますます複雑怪奇な心境になっていくのであった。そして機は轟音と共に羽田の星空の中へとばたいて行ったのであった。また我々農村青年は、新しい道標をこれからうちたてようと日本を離れたのでした。そしてここに今二年間の研修を終え、その経過を綴ってみたいと思います。</p>	<p>我々の乗ったジェット機は九時間あまりで、ワシントン州最大の人口五十万都市シアトルの郊外にあるシアトル・タコマ国際空港に着しアメリカ大陸への第一歩をふみ入れた時の感激は今もって忘れられない。さて、我々研修生は、入国手続きをすませて、空港よりグレイハウンドバスに乗って、ワシントン州の中央部に位置する、モーゼスレイク市郊外にあるピツグベンド大学に向いました。同大学のノース・キャンパスに到着した時、太陽が地平線のはるか彼方に沈もうとしているあの美しい情</p>
<p>景はこれから二ケ年のアメリカ生活における限らない可能性を期待しながら、また大きな不安を持っていた時点において非常に心をなごやかにしてくれたことを思い出します。ピツグベンド大学における学習は、七月一日より開始される我々研修生一七七名は、二十人ずつの九クラスに編成され一クラスに教師一名、助手一〜二名を配置され、日常英会話を主体とする語学教育に重点が置かれ、この他農業科目それに八月二日よりの第一回農場実習に備えての体育時間を設けられ、これら各一時間が含まれ、授業は月曜から金曜日までの週五日で、毎日の時間割は、英語四時間、農業科目一時間、体育一時間で、授業は朝八時より午後三時まで一日六時間ずつ行なわれました。また、夕食後はモーゼスレイク市の農業関係者がこられ、米</p>	<p>国農業全般、モーゼスレイク市周辺の地域農業についての講義なども受けました。またその他農場見学、地元四日クラブ、日系市民との交換会、学園内のダンスパーティーへの参加など有意義な一ヶ月を過ぎました。</p>
<p>三カ月間の農場実習 一ヶ月間の学科研修を終えて、いよいよ第一回の農場実習が八月二日より開始され研修生は約十名ずつのグループでそれぞれワシントン州とオレゴン州のリンゴの農場、洋ナシの農場、野菜農場へと配属されました。私の配属農場は八人の仲間と共にワシントン州のゴリチポートという小さな人口三千人の田舎町、コロンビア川ぞいの岸辺に開拓された果樹園に配属になりました。モーゼスレイク市からブリチポートまでの約三時間ばかり車窓の風景は変らない。行くけども行くけども遠々と続く麦畑、目にうつるのは乾いた土地と取り取った麦のカラばかり、年間降水量十インチの土地柄仕方がない。緑といえは住宅地の芝生と庭木ぐらゐのもの。国中緑で覆われてい</p>	<p>る日本からみれば全く無味乾燥したものである。我々八人は農場より迎えるバスに乗ったわけであるが、年寄りの運転手がスピードを出さず、このバスはスクールバスの払い下げで余り上等とはいえない。オンボロバスを時速百キロ以上でぶっ飛ばすからまったくたま</p>
<p>ったものではない。いくらアメリカカ広しといえども真平らな所ばかりではない。下り坂ともなれば、飛行機に乗っているよりなもの。身体が浮いてしまいうらだ。その間にも、配属される農場をあれこれと頭の中に描きながらこれから先三ヶ月程の農場実習を想像するのであった。さて十二時頃ブリチポートの町にオンボロバスは三時間余りの旅を終えて到着する。コロンビア川をせきとめたチーフジヨセスタムが大きな湖を作っている。そして微かに落下する水が町の横を流れ、川は川底を現わしている。また湖は真夏の強い日ざしにもたえて湖面がキラキラと輝く。私を含めた八人はここで下車したわけであるが周囲を見渡しても果樹園らしきものは目に入らない。目に飛びこんでくるのはグラウンドキヤニオンの溪谷と同様に、赤茶けた岩肌とまばらにみえる針葉樹だけ、はたして我々の配属される農場は何処にあるやら、まだ昼食もすませていない。車からおりてあたりやたらと珍らしい風景をカメラに夢中で収めているうちに太陽は頭上より微かに西へ落ちていた。バスの運転手の話によるとこ</p>	<p>た。バスの運転手の話によるとこ</p>